

旧陸軍歩兵第 44 連隊の弾薬庫等を文化財として保存し活用を求めるオンライン署名をスタートしました。

高知市朝倉(旧朝倉村)地区には、かつて旧歩兵第 44 連隊が置かれていました。戦後、その大部分は高知大学へと変貌を遂げましたが、西北の一角に弾薬庫と講堂、弾薬庫を囲む土塁の一部が残存しています。

44 連隊は敗戦までの半世紀にわたって存在した郷土部隊でした。この間、日露戦争、シベリヤ出兵、日中戦争から太平洋戦争へと出兵を繰り返し、多くの若者が大陸や南方の戦場に送り出されて戦死しました。県民にとっては深く記憶に刻まれた場所です。

戦後 72 年が経過し戦争体験者が減少していくなかで、戦争の悲惨さや実相を伝えるものとして戦争遺跡が今重要視されています。44 連隊の弾薬庫や講堂など連隊関連遺構はまさに戦争の「生き証人」であり高知の戦争遺跡の本丸的存在です。

2015 年に高知市が高知大学に委託して行なった学術調査でも、その歴史的重要性が確認されました。2017 年 8 月に高知で開催された第 21 回戦争遺跡保存全国シンポジウムにおいても極めて高い評価がなされ、その保存の必要性が決議されたところです。

ぜひ署名の趣旨にご賛同いただきたくよろしく申し上げます。また友人知人へのご紹介という形で拡散していただけたら幸いに思います。